コミュニティースクール通信

枝小は地域全体で教育を支える「コミュニティスクール」。
その中心である学校運営協議会の具体的な活動の様子をお伝えいたします。



令和8年度　学校運営協議員のご紹介

コミュニティースクールでは、様々な地域の関係者によって組織された「学校運営協議会」が学校と共に学校運営を考えていきます。
今年度4月に以下の14名が教育委員会によって任命されました。

会　長　増田　敏朗　（枝川小学校 PTA 顧問会会長）
副会長　岩田　安正　（元江東区青少年委員））
副会長　上野　靖之　（枝川小学校元 PTA 会長）
　　橋本　敏之　（枝川二･三丁目町会会長）
　　千葉　修一　（潮見一･二丁目町会副会長）
　　松田　秀一　（塩浜二丁目町会会長）
　　林　統一　（江東区青少年委員）
　　栗栖　かおり　（枝川小学校　地域学校協働本部コーディネーター）
　　谷口　真希　（枝川小学校　地域学校協働本部コーディネーター）
　　萩行　正嗣　（枝川小学校 PTA 会長）
　　鈴木　綾園　（枝川小学校 PTA 副会長）
　　斎藤　泰弘　（深川第八中学校　校長）
　　邑本　葉子　（枝川幼稚園　園長）
　　宮脇　隆　（枝川小学校　校長）

また、委員以外に学校より
以下の職員の方が会議に参加します。
大川　雄仁（副校長）
佐藤　ゆきこ（副校長）
吾郷　哲也（生活指導主幹）
関口　友子（教務主幹）



お祭りには
校長先生をはじめ
たくさんの先生たちも
参加してくれました!!

今年度の学校運営協議会は･･･！

◎体制の刷新と進化
新しく選任された委員とともに、さらに進化した学校との協力体制を作っていく。会議日程を学校行事と連携させ、開始時間も18時からとすることで会議への参加率の向上と効率化を図る。

◎DX の推進と活動の効率化
連絡手段や議事録の作成の DX 化を進め、教職員の超過勤務削減と情報共有の迅速化を図る。

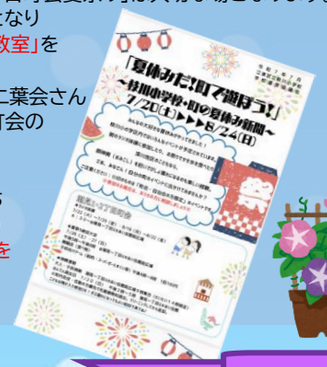
◎工事に伴う安全管理
大規模改修工事に伴う、夏祭りの実施形態と安全対策の協議と地下鉄8号線工事の情報共有と児童の安全対策の協議を行う。

◎教育活動の充実
コロナ禍で停滞していたジュニアリーダー育成や体験活動（野球体験教室など）の再開･強化をし、地域一体となった伝統行事（盆踊り練習会など）を継続する。

7･8月　枝川の夏祭りへの協力「夏休み新聞」の発行

地域の文化を次世代の子どもたちに伝える場,地域の諸団体が関係を深める場として「枝川二･三丁目町会夏祭り」は大切な場となります。
今年も学校運営協議会が中心となり
枝川太鼓会さんによる「盆踊り教室」を
はじめ学校の先生たち、卒業生
地域学校協働本部、PTA さん、二葉会さん
など地域の団体が様々な形で町会の
夏祭りを盛り上げました。

また、「夏休み中に子どもたちが安心して遊びに行ける地域の情報」をまとめた「夏休み新聞」を発行しました。



8月　熟議開催
～夏休みの宿題はどうあるべきか～









熟議のテーマは
「夏休みの宿題はどうあるべきか」
毎日の絵日記がない、夏休みドリルがない、読書感想文や自由研究は任意･･･親世代と子ども世代の「夏休みの宿題」は大きく様変わりしている。
保護者･地域の住人･教職員と、違う立場の参加者が、お互いの価値観や視点に触れ、「ではどういう形にしていきたいのか」という大きな考え方の方向性を見出し、共通意識を作っていく場となる熟議。
今回の熟議では「基本的な学習はコツコツ続け、その他のプラスアルファの学習は、一人一人が自分で取り組みたい事を自由に深められる形がよいのではないか」という意見に集約された。

今後の活動予定

10月10日(土)　大谷翔平選手寄贈グローブ企画「野球体験教室」
10月17日(土)　第3回校運営協議会
　・表現発表会の見学
　・学校給食の試食
　・来年度の学校運営の方針の協議
　・教職員人事への提言
12月19日(土)　第4回学校運営協議会
　・来年度の学校運営方針の承認
　・教職員人事への提言があれば提出
2月19日(金)　第5回学校運営協議会
　・学校運営に対する評価



学校で働く人紹介

新しい
エデュケーションアシスタント
の先生を紹介!!



エデュケーションアシスタント
和田（わだ）　恵（めぐみ）先生

「おや、あの笑顔が素敵な方は誰だろう？先生かな？4月にはいなかったような･･･？」
印象的な笑顔の和田先生。5月から着任されたエデュケーションアシスタント（EA）の先生だ。1～3年学年において、担任の目となり手となり学級運営と児童の学校生活のサポートをする。今年度の枝小では、1年生を渡邊先生が、2年生を和田先生が主に担当している。
もともと大の子ども好き。EAの仕事を「大変だな、苦労したな」と思うことはほとんどないという。子どもたちが心を開いて話しかけてくる時、苦手だったことができるようになった時、大きなやりがいを感じる。
でも「子どもと初めて会う時は緊張するんですよ。」
子どもは一人ひとり性格も得意なことも、苦手なことも違う。毎日一緒に過ごすことで接し方を探り、考え、その子に会う関わり方を作っていく。その「緊張」という言葉からは、単に「こども好き」ではくくれない、児童一人ひとりに対するリスペクトの気持ちが伝わってくる。
5月からの着任で、やっと学校生活に慣れてきたところかと思うが、それでもクラスによって子どもたちの雰囲気が違うので「毎回新鮮に感じる」という。特に、夏休み明けには、子どもたちが一回り成長し、以前よりも落ち着いてきたことを肌で感じた。「毎日一緒に過ごす中で、一人ひとりの成長を間近で見られることが嬉しいです。」あの笑顔でそう語ってくれた。

卒業生訪問



平成23年度卒業
小学校教員
須藤（すどう）　佳南（かな）さん

きっかけは枝小の5･6年生の時の担任の先生だった。
とにかく優しくて楽しい先生だった。
「こんな先生になれたらいいな。」
苦手なこともあったけれど、竹中で駄菓子を買い三丁目公園で友達と遊ぶという枝小の子どもらしい子供時代を満喫していた彼女が選んだのは「小学校教員」という職業。
教員志望者の減少が問題となるこの時代でも、迷いはなかった。
もともと子どもが好きで、中学校の職業体験で選んだのも保育園。高校も保育が学べる学校を選んだ。大学で教育実習に行った際に「小学校が一番楽しいな」と感じ、大好きだった先生と同じ小学校教員の道へ。
確かにハードな仕事ではあるが、働き方改革も進んでいるし、時間の工夫をして仕事の質を落とさない先輩たちの働き方も参考になっている。
しかしなによりも働く原動力になっているのは、自らが教える児童の「かわいさ」。「1年間通して見ているので、その子の一面だけでなくいろんな面を見ることができる。成長も見ることができる。ああ、この子にはこんな面もあるんだなとか、こんなことができるようになったなあとか･･･」
そこには、かつての担任だった小学校の先生と同じ「優しい、楽しい」笑顔があった。